

おはなし散歩道

## 芋がゆ、とろり

湯沢町 富樫あい子

「おお、寒い晩じや！」  
婆さまが一人で芋がゆを炊いておつた。  
ところどころ甘い匂いがしておる。

山里で暮らす婆さまは、爺さまに先立たれ、子どもにも恵まれず、ひとり暮らしだった。雪が消えると、庄屋さんの畠作を手伝い、冬は外仕事がないので慎ましく暮らしておつた。

いろいろ薪をくべると、婆さまが戸を開けると、ヒューッと吹雪が舞い込んだ。見ると可愛い女の子が雪まみれになつて立つておつた。

「あれまあ、寒からうに、早く入れ！」  
女の子は、すばやく中に入ると、雪を払つた。

婆さまが戸を開けると、ヒューッと吹雪が舞い込んできた。見ると可愛い女の子が雪まみれになつて立つておつた。

「はい、明日の豆まきに来て下さいとのことです」  
さつき来た女の子と同じ用件じやつた。

「どうぞまかのお」  
「こんばんは」  
「武州の山奥です」  
「いくつじや」  
「九つです」  
「それは大変じやつたのね。ところで用事は？」  
「お世話になりました」  
「おはなし散歩道

「ほいほい。承知しました。吹雪の中ご苦労さんじやつたの」  
（庄屋さんは物忘れがすっかり気をよくしたことだ。二人も使いを出すなんてありがたいの）

婆さまは、この女の子にも「おあがり」と芋がゆをごちそうした。

芋がゆは、婆さまの夕飯だったのに……。  
女の子は大喜びした。

「いただきまーす」  
さらさら、ほわほわ、おいしそうにペロリと食べてしまつた。

婆さまはうれしくなり、「大変な吹雪じゃ。よく温まっていくがいい。あすの朝、早く帰るもいい」  
「ごちそうさまでした」  
女の子は、食べ終わると、こつくり、こつくりこつくりこんこん



葉っぱを頭にのせておまじないをするらしい。婆さまは、葉っぱを拾い上げおかゆのつぶで頭にペたりと貼り付けておまじないをとなえた。女の子に戻つたキツネは気持ちよく寝ておる。翌朝は、吹雪もやんでもまき日和じやつた。

「お世話になりました。足先にもどります」  
女の子が、お礼をいつて帰ると、雪道には可愛いキツネの足あとがついておつた。

「また、おいで」  
婆さまは、にここにこ顔を見えたのだ。

木版画『春めく有喜苑仏舍利塔』作・井堂雅夫



当山書院にて新年のご挨拶を交わされる

## 奉納御礼 北島三郎さんより胡蝶蘭が届く

演歌界の大御所・北島三郎さん（八王子市在住）より、胡蝶蘭一対を御奉納頂きました。このレースを最後に引退し、今後は種牡馬として活躍が期待されています。



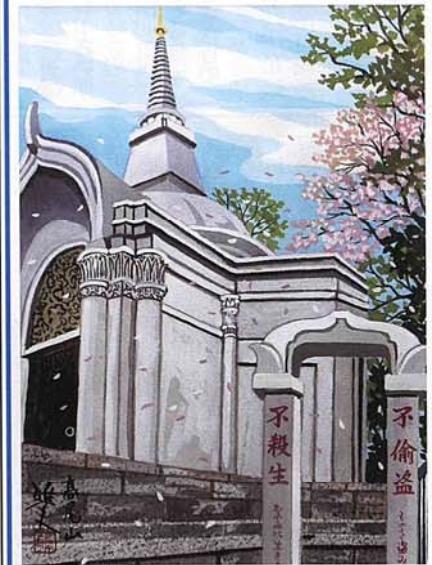
御一行は、山内僧侶・職員の出迎えを受け、菅谷執事長と当山書院・松の間にて新年のご挨拶を交わされ、しばし歓談の後下山されました。

去る一月十八日、真言宗智山派・総本山智積院より、芙蓉良英宗務総長はじめとし、高麗行真教学部長、笛沼弘憲教化部長、三神栄法法務部長、久保田剛士財務部長、近藤昌俊宗務出張所長が来山されました。

## 総本山智積院 内局御一行年賀に来山

## 院内散歩⑬

～薬王院の展示物～

木版画『春めく有喜苑仏舍利塔』  
作・井堂雅夫